

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名 自然環境整備交付金事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境企画課 自然公園係 電話番号：058-272-1111 (内 2698)

E-mail： c11265@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 22,026 千円 (前年度予算額：32,991 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県債	一 般 財 源
前年度	32,991	17,446	0	0	0	0	0	13,900	1,645
要求額	22,026	13,390	0	0	0	0	0	0	8,636
決定額	22,026	13,390	0	0	0	0	0	0	8,636

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

中部山岳国立公園をはじめ、県内の国立公園、国定公園、長距離自然歩道 (東海自然歩道、中部北陸自然歩道) において、自然公園等の安全な利用や利便性を高めるための施設整備を行うとともに、災害や老朽化で破損した施設の再整備を行う。

(2) 事業内容

① 国立公園事業

-1 県事業

乗鞍鶴ヶ池園地道路安全対策工事

大倉山避難小屋改修工事

② 国定公園・自然歩道事業

-1 県事業

東海自然歩道標識改修工事

-2 市町村事業

東海自然歩道改修工事 (瑞浪市)

中部北陸自然歩道改修工事 (高山市)

中部北陸自然歩道改修工事 (飛騨市)

(3) 県負担・補助率の考え方

① 国立公園事業

- 1 県事業 国 1/2、県 1/2
- 2 市町村事業 国 1/2、市町村 1/2 (県負担なし)

② 国定公園・自然歩道事業

- 1 県事業 国 45/100、県 55/100
- 2 市町村事業 国 45/100、市町村 55/100 (県負担なし)

(4) 類似事業の有無

- ・ 自然公園等施設整備推進事業費

国立公園、国定公園、長距離自然歩道以外の施設整備、また撤去のみの経費は補助対象外のため、本事業の対象にならない施設整備を行う予算である。

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	290	業務旅費
需用費	82	燃料費 (32 千円)、消耗品費 (50 千円)
役務費	50	郵便料、電話料
使用料	93	公用車 ETC 使用料
工事請負費	12,500	県事業
委託料	4,000	
交付金	5,011	市町村事業 (11,137 千円 × 0.45%)
合計	22,026	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

県が設置した施設 (県有施設) は、県が再整備。

市町村が設置した又は新規で設置する施設は、市町村が整備。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 自然公園等の利用促進を図るため、災害や老朽化で破損した施設の再整備等を行い、利用者が安全、安心、快適に利用できる環境を整える。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H)	(H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

安全対策や災害、老朽化で破損した施設の改修等であり、指標等の目標を設定することになじまない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- 1 国立公園事業
 - (1) 県事業
 - ・平湯・乗鞍岳線道路（歩道）安全対策工事（高山市）
 - ・乗鞍肩の小屋公衆トイレ改築工事（高山市）
 - ・中部山岳多言語標識整備工事（高山市）
 - ・大白川園地園路補修工事（白川村）
- 2 国定公園・自然歩道事業
 - (1) 県事業
 - ・東海自然歩道改修工事（垂井町、可児市）
 - (2) 市町村事業
 - ・中部北陸自然歩道改修工事（高山市、飛騨市）

(前年度の成果)

<p>・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果 登山道の指導標識や階段の改修工事等を行い、自然公園や長距離自然歩道の安全、安心、快適な利用環境を整えた。</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い</p>	
(評価) ○	近年の中高年層を中心とする登山ブーム等により、自然とのふれあいを楽しむ人が増加傾向にある。このため、自然公園や長距離自然歩道の整備は必要である。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価) ○	危険箇所の安全対策や災害、老朽化で破損した施設の再整備を行っており、直接、利用者への利便性向上につながるため、効果は高い。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある</p>	
(評価) ○	施設整備後の維持管理は市町村へ委託。県単独ではなく市町村と連携することで破損施設の早期発見など、事業の効率化を図っている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 過去に整備した施設の経年劣化が激しく、適宜改修を実施していく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 既存施設を中心に、地域のニーズを踏まえ、利用者が自然公園や長距離自然歩道を安全、安心、快適に利用できる環境を整える。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	